

## 平成19年度に実施された事業の結果報告及び今後の方向性(概要)

※本ページは各事務事業の概要紹介と19年度の報告を目的としています。評価の詳細については次ページをご覧ください。

事業名	中央・東消防署救急活動事業	所管	中央・東消防署 消防課
			Tel 2929-9125/2998-1190

事業の目的 (何の為に 行うか)	災害により生じた事故、又は屋外若しくは公衆の出入りする場所において生じた事故並びに重篤な傷病者で、医療機関その他場所へ緊急に搬送する必要があるものを救急隊によって搬送する。
------------------------	--

対象 (誰を、何を 対象としてい るか)	市民	対象とした数	339,058	人
		実際に 利用した数	12,000	人

活動の内容	(何を したか)	1 救急出場、救急支援出場(救急需要の増大に伴い、消防隊が傷病者搬送の支援活動や救急隊が現場に到着するまでの間、応急処置等を行う。) 2 救急車、救急資器材の点検整備事業 3 救急現場を想定した救命活動訓練										
		活動実績	項目名	中央署の救急件数	7772	4906	項目名	中央署の搬送人員	7171	4829	項目名	市民利用割合数
			東署の救急件数	単位	件		東署の搬送人員	単位	人		単位	人

経費 (どれだけか かったか)	当初予算額(千円)	決算額(千円)	事業費合計(千円) ※人件費・公債費を含む	市民一人当たり単価(円)
	5,393	5,393	652,076	1,923.2

成果 (結果として どうなった か)	成果指標名	説明 (計算方法等)	目標値	実績	達成率
	心肺停止傷病者の1ヶ月生存率	心肺停止で医療機関に搬送した傷病者の1ヶ月以上の生存者数÷心肺停止で医療機関に搬送した傷病者	10	12.3	12.3
			単位	%	単位
			%	%	単位
			%	%	%

今後の方向性 (所管の意見)	総合評価	* 事業の継続 ⇒ * 拡充 縮小 統合 * 改善・効率化 改善余地なし その他〔 〕				
		終了 ⇒ 事業完了		終了		休止
	予算	現状どおり	* 増額	減額	終了	

今後の方向性 (二次評価の意見)	二次評価実施の有無 * 有り⇒下記評価へ 無し⇒終了					
	総合評価	拡充 縮小 統合 改善・効率化 改善余地なし * その他〔 〕	終了			
	予算	現状どおり	増額	減額	終了	

# 平成 20 年度事務事業評価表(一般用)

①事務事業名		担当課	課コード	100603	画	2929-9125/2998-1190
事業コード	中央・東消防署救急活動事業	中央・東消防署	消防課			
100605						
開始年度	平成	年度	→	終了年度	平成	年度
		グループ	中央消防署東消防署			

②事業の概要	事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務		<input type="checkbox"/> 法定受託事務		<input type="checkbox"/> 法定受託+附加		根拠法令	消防法第2条第9項		
	分野別計画・指針										
	関連・類似事業										
	総合計画の体系	政策	第6章 みんなが安心して暮らせるゆとりあるまち	施策	1節 消防・救急	中柱	3 救急業務の高度化	小柱			
	H19市民意識調査における施策の順位…43施策中 13 位		実施計画における位置づけ… H19 *** H20 ***								
行政改革大綱における行動計画への位置づけ											
コード		3261		事務事業見直しの推進							
事業開始の背景		戦後の復興から成長期に入ると、全国各地で交通事故や労災事故が増増したことにより、負傷者を搬送する手段として、各消防本部で救急活動が開始された。当市消防本部では昭和32年7月救急車兼指揮車を配備、昭和38年消防法により救急業務が法制化されたことに伴い、昭和38年人工蘇生器及び救急用具一式、無線機を装備した救急車を配備し、救急業務の本格的な運用を開始した。									

③事業の内容	目的(何のために行うか、具体的に) 災害により生じた事故、又は屋外若しくは公衆の出入りする場所において生じた事故並びに重篤な傷病者で、医療機関その他場所へ緊急に搬送する必要があるものを救急隊によって搬送する。										
	対象(誰を、何を対象としているのか)										
	利用数の考え方		市内で発生した救急事象の傷病者								
	対象数	単位	平成 18 年度	337,883	人	利用数	単位	平成 18 年度	11,737	人	
			平成 19 年度	339,058	人			平成 19 年度	12,000	人	
事業の具体的な内容及び実施方法											
1 救急出場、救急支援出場(救急需要の増大に伴い、消防隊が傷病者搬送の支援活動や救急隊が現場に到着するまでの間、応急処置等を行う。)											
2 救急車、救急資器材の点検整備事業											
3 救急現場を想定した救命活動訓練											

④前年評価と改善点	≪ 最終評価 <input type="checkbox"/> 一次評価 <input checked="" type="checkbox"/> 二次評価 ≫										
	総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の継続 ⇒ ( <input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 ( ) )									
	予算	<input type="checkbox"/> 現状どおり <input checked="" type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了									
平成19年度中に改善した点											
脳卒中の具体的な方策として、平成19年度に「所沢地域脳卒中ネットワーク」が開設され、インターネットのホームページで各医療機関の診療体制、病床数、脳卒中専門医が在院か否かの最新情報が確認できるようになり、脳卒中傷病者の速やかな医療機関選定に重要な役割を果たすシステムが構築された。											

⑤経費	≪会計種別≫	一般会計	平成 18 年度 (千円)	平成 19 年度 (千円)	平成 20 年度 (千円)
	当初予算		7,577	5,393	6,468
	決算 (見込み含む)		7,577	5,393	
	(嘱託職員) (臨時職員)	( 人 ) ( 人 ) ( 人 ) ( 人 )			
	正規職員人件費	68, 84 人	633,328	68.84 人	646,683
	公債費				
	事業費合計		640,905	652,076	
	財源内訳	一般財源	640,905	652,076	6,468
		国・県支出金			
		受益者負担金			
	市債				
	その他				
	市民一人当たり(単位:円)	1,896.8	1,923.2		
	利用者一単位あたり(単位:円)	54,605.5	54,339.7		

⑥指標	項目名	計算方法	単位	H 18	H 19	H20見込み	将来目標	
	活動実績	中央署の救急件数 東署の救急件数	救急及び救急支援出場の件数	件	7469 5286	7772 4906		
		中央署の搬送人員 東署の搬送人員	救急車で医療機関等に搬送した傷病者数	人	6843 4894	7171 4829		
		市民利用割合数	市民÷救急搬送人員	人	28.8	28.4		
	成果分析	心肺停止傷病者の1ヶ月生存率	心肺停止で医療機関に搬送した傷病者の1ヶ月以上の生存者数÷心肺停止で医療機関に搬送した傷病者	%	目標値	10	10	
			%	実績	5.8	12.3	実績値の拡大を図る1 実績値の縮小を図る2	
			%	達成率	5.8	12.3		

⑦一次評価	評価項目	現状評価	評価項目	現状評価	
	対象設定	事業の対象を見直す必要性	実施主体	現在の実施主体	見直しの必要性
		<input type="checkbox"/> 対象を絞る <input type="checkbox"/> 対象を拡大する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの必要なし	消防機関	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
	他事業との整理・統合	類似・関連事業などとの整理・統合	受益と負担の関係	受益者負担の有無	見直しの必要性
		<input type="checkbox"/> 統合する <input type="checkbox"/> 連携する <input checked="" type="checkbox"/> 類似事業がない <input type="checkbox"/> 統合等必要なし	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
明らかとなった課題	防衛医科大学校病院の全面的な協力を受けて、教育訓練体制が充実し救急隊員の資質向上が図られたことにより、呼吸・心拍再開率の目標値を見直す必要性がある。				
⑧二次評価	今期目標項目(何を)		達成水準(どこまで)		時期(いつまで)
	平成20年度における目標設定		最新の高度救命処置用資器材を併せて整備する		平成21年2月
	平成21年度における事業の方向性				
	総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の継続 ⇒ ( <input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 ( ) )			
	予算	<input type="checkbox"/> 現状どおり <input checked="" type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了			
評価理由					
救急件数自体は、平成19年は前年に比べて減少に転じたが、救命率向上の求めによる救急現場における特定行為の拡大、また社会全体の高齢化基調から、依然として救急活動は質・量とも増加傾向にある。このことから、更なる救命率の向上をめざし車両の定期的な更新と、最新の高度救命処置用資器材を整備する必要がある。					
評価日	平成20年5月7日	記入者職氏名	中央消防署消防課長 荒崎幸由 東消防署消防課長 平岡利夫		

⑧二次評価	平成21年度における事業の方向性						
	総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( ) <input type="checkbox"/> 終了					
	予算	<input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了					
	評価理由	評価日					
	次年度用事前評価	部内優先順位… 位	非常に高い	高い	やや低い	低い	優先度評価
	見込まれる貢献度	総合計画上位目標	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> A:優先的に資源配分をするべきと評価する事務事業
	評価理由	市長マニフェスト	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> B:重要であり引き続き実施すべきと評価する事務事業
	評価日						<input type="checkbox"/> C:現状での実施は見送るべきと評価する事務事業

⑨個別計画における方向性	◎環境基本計画	本事業の左記計画における位置づけ… 無し		計画コード	
	施策の体系				
	◎次世代育成支援行動計画	本事業の左記計画における位置づけ… 無し		計画コード	
	基本目標				
	主要課題				
施策の方向					